令和３年度　学校だより　学校教育目標「せいいっぱい　きたえ　のびよう　東っ子」

東白川小だより

令和３年９月 30 日(木)　№7

全力　協力　努力

「心動かされる姿」

第４２回東白川小学校運動会が２５日(土)、ピカピカの青空の下、開催されました。

はぐるま委員会で決めた運動会スローガン「全力・協力・努力」のもと、子供たちは「仲間と力を合わせ、せいいっぱいの力を出し、簡単にはあきらめない」姿をしっかりと見せてくれました。

競技はもちろんのこと、各係の活躍ぶりに心を動かされました。人数が少ないため、一人分の仕事量は多くなります。例えば、器具係の子供たちは、自分の競技を終え、退場したらすぐにその競技の器具を片付け、次の競技の器具を運びます。休む暇がありません。こういうところにも協力し合い、全力を出すことができました。一人一人、力を出し切った運動会だからこそ、「楽しかった」と振り返ることができるのでしょう。

全力とは一人ではなかなか出せないものです。みなさんのあたたかな応援があっての姿です。また、運動会後の片付けには今年も大勢の方に残っていただき、力を貸していただきました。本当にありがとうございました。

「あきらめずに続けて得られた笑顔」

夏休みの作品を見ながら、一人一人にコメントを書いて渡したところ、何人かから返事がきました。そこには、コメントへのお礼だけでなく、その作品を仕上げるまでにどんな苦労があったのか、どんな工夫をしたのかなどがくわしく書いてありました。ある子の手紙には「書いていて手が痛くなったり、めっちゃ疲れたりしました。清書のときに、字がかすれたり、紙がよごれてしまったりしていやになったこともあるし、途中、えらくてやめそうになったこともあるけど、がんばって最後まで書いて、作品を仕上げることができたので、すごくうれしかったです。」とありました。この「うれしさ」は最後まであきらめなかったからこそ味わえるものです。こういった取組一つ一つを大切にしていきたいものだと思いました。

「できるようになったよ！」１学期からずっと一輪車の練習を続けてきた女の子が、その成果を見せてくれました。ここまでの道のりは長く、周りの子ができるようになっていくのを横目に、本当によくがんばりました。途中であきらめてしまうのではないかと心配しましたが、練習を続け、ここまできました。「すごい、すごい。あきらめなくてよかったね！」※練習用の手すりからスタートし、どんどん遠くへ行きました。あきらめず手に入れた笑顔がまた一つ増えました。

※ぎふ弘済会「へき地・複式学校教育支援事業」の助成金により、一輪車の練習用手すりを購入しました。